建設経済常任委員会

令和3年3月10日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第 6 号 令和3年度旭市水道事業会計予算の議決について
- 議案第 7 号 令和3年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について
- 議案第 8 号 令和3年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について
- 議案第 9 号 令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第 19 号 旭市農産物処理加工センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 20 号 旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 25 号 和解及び損害賠償の額を定めることについて
- 議案第 27 号 市道路線の認定について
- 議案第 30 号 専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項
(令和2年度旭市一般会計補正予算)

出席委員（5名）

委員長	向 後 悦 世	副委員長	遠 藤 保 明
委員	佐久間 茂 樹	委員	木 内 欽 市
委員	高 木 寛		

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

副議長 宮内 保

説明のため出席した者（9名）

副市長	加瀬 正彦	商工観光課長	小林 敦巳
農水産課長	多田 一徳	建設課長	加瀬 博久
都市整備課長	栗田 茂	下水道課長	丸山 浩
水道課長	宮負 亨	農業委員会 事務局 会長	向後 秀敬
その他担当 職員	1名		

事務局職員出席者

事務局長	花澤 義広	事務局次長	向後 哲浩
副主幹	黒柳 雅弘		

開会 午前10時 0分

○委員長（向後悦世） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

また、委員の皆さん、執行部の皆さんにおかれましては、コロナ対策に十分留意されまして、委員会に臨んでいただきたいと思います。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は5名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

本日、宮内副議長に出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

○副議長（宮内 保） それでは、皆さん、どうもおはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。

本日は、付託された10議案について審査をしていただくことになっております。どうぞ慎重なるご審議をお願いいたしまして、簡単でございますが、挨拶に代えさせていただきます。

よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案等説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、加瀬副市長よりご挨拶をお願いいたします。

○副市長（加瀬正彦） おはようございます。

本日は建設経済常任委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案でございますが、全部で10議案であります。

その内訳ですが、まず予算関係で、議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのうちの所管事項、議案第6号、令和3年度旭市水道事業会計予算の議決について、議案第7号、令和3年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について、議案第8号、令和3年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について、議案第9号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項の5議案となります。

条例関係でございますが、議案第19号、旭市農産物処理加工センターの設置及び管理に関

する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第20号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての2議案であります。

そのほかでございますが、議案第25号、和解及び損害賠償の額を定めることについて、議案第27号、市道路線の認定について、議案第30号、専決処分の承認について、これは令和2年度旭市一般会計補正予算でございます——のうち所管事項がございます。

以上、全部で10議案でございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しまして、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ全議案可決、承認くださいますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（向後悦世） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月3日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第6号、令和3年度旭市水道事業会計予算の議決について、議案第7号、令和3年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について、議案第8号、令和3年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について、議案第9号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第19号、旭市農産物処理加工センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第20号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第25号、和解及び損害賠償の額を定めることについて、議案第27号、市道路線の認定について、議案第30号、専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項についての10議案であります。

初めに、議案第1号中の所管事項について、補足説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（小林敦巳） それでは、議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのうち、商工観光課所管の補足説明を申し上げます。

なお、補足説明につきましては、全員協議会で説明できなかった事業のうち、主なものをご説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、予算書の162ページをお開きいただきしたいと思います。

歳出になります。

5款労働費、1項1目労働諸費186万9,000円でございます。

主なものとしましては、右側の説明欄の2、職業相談室運営支援事業112万9,000円、旭市青年の家で開設しております職業相談室の窓口業務を行う会計年度任用職員、1名の報酬等でございます。

続きまして、少し飛びまして184ページをお願いします。

よろしいでしょうか。

7款商工費、1項1目商工総務費は1億3,365万5,000円でございます。

このうち、右側の説明欄の3ですね、消費者保護対策事業825万円は、旭市消費生活センターの運営に係る経費でございまして、主なものは、こちらの相談員4名の報酬でございます。

続きまして、185ページをお願いします。

下段になります。2目商工振興費は2億2,388万円でございます。

主な事業としましては、次の186ページとなります。

中段の説明欄の2、中小企業金融対策事業につきましては、市の中小企業資金融資制度に基づき、中小企業へ融資を行う市内の金融機関に対して、合計1億円を預託金として支出するものでございます。

続く説明欄の3、制度資金利子補給事業1,505万6,000円は、ただいま説明しました中小企業資金融資制度に基づく、市内中小企業の資金融資について、年2.15%の利子補給を行うものでございます。

続きまして、188ページをお願いします。

説明欄の7、企業誘致等支援事業659万6,000円は、進出企業や既存の企業の規模の拡大に対し、税の優遇措置や雇用奨励金、緑化奨励金などの支援を行うものでございます。

続きまして、189ページをお願いします。

中段の3目観光費1億1,800万7,000円でございます。

主なものとしましては、次の190ページをお願いします。

説明欄の一番下になります。

3の観光施設管理費4,598万9,000円は、所管する市営プールや長熊釣堀センター、それから海岸の駐車場、それから海岸のトイレなどの施設の運営、また維持管理に関する経費でございます。

続きまして、193ページをお願いします。

説明欄、下段になりますが、説明欄6、海水浴場開設事業1,884万5,000円は、矢指ヶ浦と飯岡、二つの海水浴場の開設に必要な経費でありまして、主なものは監視員の業務の委託料、海水浴場の整備工事等でございます。

以上で、議案第1号、商工観光課所管の補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決について、建設課所管の補足説明を申し上げます。

なお、全員協議会、並びに議案質疑で説明ができなかった事業のうち、主なものを説明いたします。

予算書の200ページをお開きください。200ページです。中ほどになります。

右側、説明欄3、交通安全施設維持補修事業の14節工事請負費のうち、交通安全施設整備工事1,719万8,000円は、ガードレール、転落防止柵の整備のほか、区画線などを施工するものでございます。

その下の道路付属施設改修工事440万円は、老朽した道路標識の改修・修繕工事費を計上したものでございます。

少し飛びまして、204ページをお願いいたします。204ページ、上段になります。

説明欄1、橋梁長寿命化修繕事業、12節委託料の調査・設計委託料1,100万円は、旭市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕工事が必要な橋梁の補修設計業務の委託料でございます。

その下の調査・測量委託料3,058万8,000円は、橋梁の定期点検を予定しております106橋分の点検業務委託料でございます。

次に、14節工事請負費の橋梁改修工事1,320万円は、橋梁修繕計画に基づき、修繕が必要な橋梁、6橋の維持補修工事費を計上したものでございます。

以上で、議案第1号、建設課所管の補足説明を終わります。

よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのう

ち、都市整備課所管の補足説明を申し上げます。

なお、全員協議会で説明できなかった事業のうち、主なものについてご説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

初めに、歳入です。

予算書の20ページをお開きください。

中段になります。

13款使用料及び手数料、1項6目土木使用料です。

3節都市計画使用料のうち、説明欄1、あさひパークゴルフ場使用料は、令和3年度の年間利用人口を、一般4,000人、月ぎめ会員1,400人前後と見込み、789万6,000円の収入を計上いたしました。

同じく4節住宅使用料5,086万3,000円は、市営住宅、雇用促進住宅の使用料等になります。

次に、25ページをお願いします。

一番上の欄になります。

14款国庫支出金、2項4目土木費国庫補助金のうち、2節住宅費国庫補助金2,542万6,000円は、社会資本整備総合交付金で、説明欄の1は地域住宅交付金で、住宅リフォーム補助事業、市営萬歳住宅改修工事、被災者住宅再建資金利子補給事業、災害公営住宅家賃低廉化事業に対するものでありまして2,376万6,000円です。

説明欄の2は、住宅・建築物耐震改修等補助金で、住宅の耐震診断や耐震改修設計費用、耐震改修工事費、危険コンクリートブロック除去補助事業など、耐震化事業に関するもの166万円です。

次に、30ページをお願いします。

中段になります。

15款県支出金、2項6目土木費県補助金、1節住宅費県補助金1,665万8,000円は、説明欄1、住宅・建築物耐震関連事業費補助金として、危険コンクリートブロック塀除去補助事業等の耐震化事業に関するもの73万円。

説明欄2、被災者住宅再建資金利子補給事業費補助金として61万1,000円。

説明欄3、家賃低廉化・低減事業補助金として、災害公営住宅家賃低廉化事業などに対するもの1,531万7,000円です。

次に、歳出になります。

207ページをお願いします。

8款土木費、3項都市計画費の4目公園費になります。

説明欄1の公園維持管理費9,016万円は、都市整備課が所管している都市公園12か所、その他公園6か所、宅造公園45か所の維持管理及び県立九十九里自然公園内に設置されている公衆トイレなどの維持管理に関する費用です。

このうち、主なものについてご説明いたします。

12節委託料、公園維持管理委託料は、これらの公園の清掃、除草、樹木の剪定等、年間を通じた管理費の費用として5,300万円を計上したものです。

14節工事請負費879万8,000円は、公園施設設置工事及び公園改修工事費で、川口沼親水公園の老朽化した園路の改修や、海上コミュニティ運動公園の複合遊具の改修、日の出山公園の園路灯等の設置費です。

次に、208ページをお願いします。

説明欄の2、あさひパークゴルフ場維持管理費3,617万2,000円は、パークゴルフ場の年間を通じた運営管理費となります。

このうち、主なものについてご説明いたします。

209ページをお願いします。

12節委託料1,122万8,000円のうち、主なものとして施設維持管理費委託料1,106万9,000円は、コースの維持管理にかかるものです。

14節工事請負費313万5,000円は、パークゴルフ場改修工事として、自動散水設備の改修費を計上したものです。

次に、212ページをお願いします。

説明欄4、市営住宅改修事業3,527万7,000円は、工事請負費で、市営住宅改修事業2,759万9,000円と、解体・撤去工事767万8,000円です。市営住宅改修事業は、公営住宅等長寿命化計画に基づき実施する萬歳住宅の屋根、外壁等の改修工事です。解体・撤去工事767万8,000円は、神西住宅1棟及び双葉団地1戸について、老朽化による用途廃止に伴う解体撤去の工事費です。

以上で、議案第1号、都市整備課所管の補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） 議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の農水産課所管事項につきましては、本会議における説明以外はございませんので、ご審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号について質疑がありましたらお願いいたします。

高木寛委員。

○委員（高木 寛） お疲れさまです。

都市整備課にお伺いします。

先ほど住宅を改修するというか、市営住宅ですね。今見ると、かなりのところがもう空き地で更地になってますけども、今後、市営住宅を建設するとか、そういう方向性はあるんでしょうか。伺います。

○委員長（向後悦世） 高木寛委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 現在のところですね、空き地になってるところが見受けられるところにつきましては、政策空き家となった住宅をですね、空き家になりましたので解体したところが、今更地になっているところが何か所かございます。それで、これから新たな住宅を建設するという計画は今のところはございません。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） いいですか。

木内委員。

○委員（木内欽市） すみません、雇用促進住宅についてお尋ねいたします。

今、入居率が51ぐらいだと聞いたんですけども、それで今いただいた家賃は、当然将来の解体等に備えて積み立ててあると思うんですが、現在どのぐらい積み立てになっていますか。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 申し訳ありません。

令和元年度末時点で9,105万7,000円、積み立てしております。

○委員（木内欽市） 入居率は51%ぐらいしかいない。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 今現在、3月9日時点で54.4%でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） はい、よろしいですか。

○委員（木内欽市） はい。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） ご苦労さまです。176ページの8番、多面的機能発揮促進事業、これをちょっと教えていただきたいと思います。

それから、196ページの土木総務費14.5%増という話で、これ議案質疑で米本弥一郎議員から質問があったと思うんですけど、総務課長、単純に人件費増ですってお答えになってんですけど、土木費が令和2年度に比べて、とりわけ増えてるわけでもない、むしろ逆に減ってんじゃないかと思うんですけど、これは人数が増えたんでしょうね、多分ね。どういう理由で、何人くらい増えているんですかね。ほかの方もあるんですけど、取りあえず所管なので、もしそれが分かればお願いします。

取りあえず、その2点でお願いします。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） それでは、農水産課のほうからは、176ページの8の多面的機能発揮促進事業につきまして、内容についてご説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、農地、農業用施設等の資源を保全するための活動の促進事業となっております。こちらは農家と農家以外の方で組織します活動組織を立ち上げていただきまして、農村資源の保全の維持管理を行っていく事業になります。現在、市内で15団体を予定してございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、佐久間委員のご質問でございます土木総務費、196ページになります。

こちらの昨年度比で、14.5%増になっているということでございます。本会議の中で、総務課長がやはり職員増をするというような内容でございました。

申し訳ございません。私のほうでは、まだ詳しい話はちょっと伺ってないんですよ。給料関係ですと、やはり総務課の管轄になってしまいますので……。

（発言する人あり）

○建設課長（加瀬博久） 人数ですか。人数もはっきりは、私ども。申し訳ございません。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） じゃ、もう1回、再質問させていただきます。

15団体、ちょっとこの内容がよく分からないんですよ、正直な話。それで、幾らか。約7,800万円ぐらい払うわけだよね。15で割って、幾つか、1つ、50万円ぐらい。どんなことをやってんのかなと思って、ちょっと具体的にもう1回、教えていただければありがたいなと思います。

それと、今、土木総務費のほうなんですけど、これは何、建設課のほうから要望があっていったんじゃないかと、総務課のほうから、こうしろという話が来たんですか。必要だから人員増やしてくれという話なのかなと思ったんですけど、そうじゃないんですね。それちょっと。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） こちらの事業につきましては、活動団体のほうで、その地域の水田、現在、水田になりますけども、水路の草刈りですとか、農道の補修、修繕補修ですとか、そういった農地のほうの保全という形で活動していただいております。こちらにつきましては、その活動、組織の管理します面積に応じまして、補助金のほうを交付しております。

こちら補助金の負担ですが、国が50%、県が25%、市が25%の割合で負担してございます。以上でございます。

○委員長（向後悦世） 副市長。

○副市長（加瀬正彦） 人員の関係なんですけども、ちょっと建設課のほうでは分からないと思います。実際には総務課のほうで、1月1日、この予算の資料に出ているところで、1月1日現在で比較するんですけども、各課で必要な人員、それから退職の人員、それから採用する人員、それらを全て勘案して振り分けていくことになります。その中で、構成等の課、変更の場合もありますし、あくまでも予算の中で、建設課については事業も相当多いということで、人員増を図っていくんだという、そういうことで予算増になっているというふうに認識しております。

○委員長（向後悦世） よろしいですか、佐久間委員。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 多面的機能発揮促進事業については分かりました。まだちょっと分からないところがあるけど、また後で教えてください。

それで、土木費の人件費なんですけど、いや、本当に俺、土木、仕事も大変だから人数増やしてくれって、現場から要求があったのかと思ったんです。そうじゃないんですか。びっ

くりした。

これ当初予算の概要ですけど、副市長、多分、私が何を言うか検討はついてるだろうと思うんですけど、市税71億6,500万円に対して、人件費が59億6,770万円ですね。でね、83.28%なんです。市税の83%が人件費なんです。

副市長、多分分かってると思いますけど、県内でもワースト3に入るんじゃないかと思うんだよね。これ、副市長、お伺いしますけど、もう3年ぐらい前から言ってんだからね。70、75、80って、今年、83だよ。今年、またほら総務省から、元年度のあれが公式に発表されてないんで、元年度もちょっと分からないんですけど、副市長、県内でこんな数字、ある市ありますか。あったらちょっと教えていただきたいと思うんです。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） 今その資料は手元にございませんで、お答えはできません。

ただ、税収に対しての人件費比率ということでいけば、81%になってしまうんでしょうけども。

（発言する人あり）

○副市長（加瀬正彦） 83%ですかね。その比較自体が、実際には市全体の収入を見ていく必要があるだろうと。人口規模等で適正な人員、これもあると思います。よく銚子市と比較して職員が多いんじゃないかとかって、そういう形も言われますけども、現実にはそれぞれ行う事務に沿って、ある程度人員の配置をしていくと、やはりそれほど多い人員ではないということになります。

（発言する人あり）

○副市長（加瀬正彦） ですから、これはもう当然、例えば何年前にも、一度お答えしてるかもしれませんが、例えば保育所の数で、これだけ保育所があつて、保育士なんか100人からいます。そういった人件費も全て上がってきます。

じゃ、保育所をなくせばそれが全部減るので、一気に人件費率、減ります。ただ、そういうことではないと思います。ですので、それぞれの各市でやってる政策に応じて、人件費ある程度決まってくるので、そここのところの比較をしてしまうと、ちょっとどうかなということとは正直ございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 昨年、今頃、多分、私、これお渡ししたんですよ。副市長さんね、ご

覧になってると思うんですけど、副市長、見てますか。見てない。

だって、伊藤前議長、合っているかどうか、確かめてもらってるって言ってる、もう1年たっちゃうんだけど、何にも言ってない。この後ろに載せてあるのね。それで、いろんな視点があると思うんですよ、給料は、人件費は。今の視点で見ると、だいたい、千葉県内、これで平均48%ですよ。80という数字は、いかに大きいかが分かると思うんですけど、最近、合併した南房総市が、一番多分大きいんだろーと思いますけど、その次くらいになっちゃうんです、83%というの。いろんな視点あります、確かに。市民に対して人数とかね。

それで、多分だから、この間も、2つの課、課長職、減らしましたよね。副市長、多分、一生懸命人件費、減らそうと思って頑張っているんだと思うんですよ、正直な話。だけど、今回もこれ下げようと思ってても下げられない。下げようとは思ってはいるんだけど、こういうふうな結果になっちゃってるということで捉えていいんですか。副市長の努力は、私は痛いほど感じますけど。

だから、現場で必要だから人間を増やすというなら分かるけど、総務の上からこれだけしろという、どうなのかなという気がするんですけど、それはそれとしてね、副市長、どうなんですか、これ。多分これ、この先、またどんどんどんどん上がってきちゃう可能性があるんですけど、なかなか人件費だから、下げようと思ったって、すぐに下がらないじゃないですか、正直な話。だから、私は心配するんですけど、今回どうなんですか、辞めた人、何人で、新採用、何人ぐらいしたんですか。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） 冒頭の建設課の人員の関係、ちょっと説明が不足していたかもしれません。現実には、12月頃に各課長のヒアリングをやります。現状で、それぞれの仕事に対して人員的にどうなのか、そういったところのヒアリングを経て、全て決めていくということなので、各課の要望を聞いた上で人員の配置をしているという、それは総務課のほうで行っております。

それと、人件費率ですけども、現実には人件比率だけで比較するのは、ちょっとどうなのかなということがあります。税収がなければ払えないだろうと言いますが、それぞれ各団体、財政力指数が違います。その財政力指数が違うところを補填するために、地方交付税で交付されます。そういったお金も全て含めて、比較していかないと難しいのかな。そのところというのは、決算の中で、例えば予算の中でも出してますけども、義務的経費、ここ

の部分で何%ぐらい収入のうちになるか。経常収支比率というのが、よく市町村の比較に用いられる数値であるんですけども、その経常収支比率が高いほど、その市としては問題があるのではないかと、そういうことを言われています。

令和元年の経常収支比率ですけども、86.8%ということですので、ここについては、ある程度この近隣の中では、比較的、低い中で収まっている。銚子市と比べてしまうと問題があるかもしれませんが、銚子市は九十数%いってますので——ということなんです。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) 一応、少なくとも退職者数よりも、採用者数は必ず抑えているという状況にあります。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) 採用したのは27だったかな、6だったかな。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) ちょっと今、いや、消防とか保育士とかございますので、それらも含めてなので26、27だったと……。

そういった採用で、辞める方がいて、採用すると。その数は、辞めた方を必ず上回らない。それまでも、例えば辞めた方の3分の2にしましょうとやって、ずっと減らしてきて。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) 今回、途中でもいるから。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) じゃ、すぱつと言え、まず退職者の数があって……。

(発言する人あり)

○副市長(加瀬正彦) 27だと思うんですけど、これ間違っていたらまずいので、ちょっと今、数字を持ってきますので、それからにさせていただきますか。

○委員長(向後悦世) 佐久間茂樹委員。

○委員(佐久間茂樹) 確かにそういった視点だけじゃなくて、市民、例えば100人当たり何人とか、いろんな視点あると思うね。財力指数、あるいは義務的経費、それに対して自主財源が幾らだとか、そういう見方もあるだろうし、いろんな見方がある。ただ、単純に考えて分かりやすい、正直な話。

私が心配するのはね、要するに納税者が例えば71億円、納税しましたと、71億6,000万円

ね。そのうち60億円が人件費だとすれば、納税者の納税意欲が薄れると思うんだよね、正直な話。

人件費の中に議員の報酬も入ってるんですけど、議員は合併して50人減らして、年間約4億円ぐらい減らしたわけですよ。15年だから、60億近く減ってるわけですよ、議会、議員報酬は。それにもかかわらず、78、70、ずっと70ぐらいできて、ここ二、三年で75、83と上がってるから心配するんですよ、正直言って。

副市長も、一生懸命、何とか抑えようという気持ちは、例えば課長職、2つ減らしたとかね。気持ちは分かるんだけど、もう抑えられないんじゃないですか、正直言って今。どうなんでしょうか、その辺、抑えたいと思ってんですか。

○委員長（向後悦世） 加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） まず一つ、合併以来、定員適正化計画を設定して、その目標値、数値を上げてます。それをはるかに上回る数値で、ずっと減らしてきてます。合併以来、175人、職員は正直減らしました。今、第三次の定員適正化計画でも10人減らすというところを、それも今ほぼ目標、クリアできそうなところにいるということですよ。

ですから、そここのところを踏まえて、今、課の統合をして、課長も2人、班長も2人とか、副課長も1人、減らして、こういう形で減らして、それ以降の下の方の職員のところをさらに減らせるかということ、非常に難しいと思います。今の状況の中で、この事務の適正化、適正な人数を考えたときには、という状況にあるということは、この場で申しておいたほうがいいのかなと思います。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 確かに、副市長、一生懸命やってくれてるんだろうと思いますけど、そういった意味では、ただね、我々、私は議員の立場とすればね、市の職員を面倒見ていただくのはいいんですけど、市そのものね、市の財政そのものを心配するんですよ。

市税が多分、これから来年度も減るという話ですけど、人件費を簡単には、今日、来年、減らそうっていても減らせないわけで、時間がかかるわけで、その辺でね、もう合併して15年たってきて、まさかこういうふうになるとは、ちょっと私も予想もしませんでしたけど、ちょっとだから数年前から申し上げてんですけど、やろうと思っても多分できない、ただ抑えなきゃならないということは、気持ちはそうなんですよ。それだけちょっと確認してください。

○委員長（向後悦世） 加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） すみません、今、数字が来ましたので、27というのは去年の数字でした。今年の採用予定は、25の募集で20人になりました。辞退等も相当ございまして、辞めた人、全体で31人に、この3月末までで31人になります。ですから、ここだけで11人減ってしまったという状況になります。

○委員（佐久間茂樹） 分かりました。

○委員長（向後悦世） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第6号について補足説明がありましたらお願いいたします。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 水道課です。よろしく申し上げます。

議案第6号、令和3年度旭市水道事業会計予算の議決についての補足説明につきましては、全員協議会並びに本会議で補足説明を申し上げたとおりでございます。

特に補足する内容はございませんので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第6号について質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） ご苦労さまです。

昨年の定例会の最終日にこの本を頂きました。よくできてるなと思うんですけど、この本の内容と今回の予算は合ってますか。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） それでは、予算書と水道ビジョン、合っているかというご質問でございますが、水道ビジョンにつきましては、事業開始年度が令和2年度から11年度までの10年間となっております。

しかしながら、この水道ビジョンができましたのが、元年度末ということで、2年度の予算には、水道ビジョンに関する事業につきましては盛り込むことはできませんでした。しかしながら、令和3年度につきましては、基幹管路の基本設計と旭配水場の更新の基本設計を盛り込んでおります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） ここにね、39ページですね、今回の予算とどこが違うか分かりますか。分かったら、ちょっとこの内容、予算内容について、令和3年度について説明してくれますか。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。
水道課長。

○水道課長（宮負 亨） ですから、この予算書といきますと、1年ずつ事業のほうの開始が遅れてるという状況になろうかと思えます。

これ、あくまでも投資財政計画の資本的収支につきまして、シミュレーションしたものでございますので、一応これに基づいてはやるとしていますが、実際はそういったことで1年遅れの開始となってしまいました。

今後ですね、今申し上げましたように、配水場と基幹管路の基本設計が終わりましたら、次、詳細設計、それと具体的に工事のほうに入っていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） あれですか、この違いは承知してたんですね。してたんですね。でも、議会に言わない。別に言わなくとも、質問が出なきゃ、そのままいいと、そう思ってたんですね。ちょっと、そこだけ聞かしてくださいよ。お願いします。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。
水道課長。

○水道課長（宮負 亨） そういうことはございません。あくまでも水道ビジョン完成が、令和元年度末になってしまったということで、事業開始が2年からできなかったということでございます。あくまでも議会に説明しなければ、そういうことは到底、考えておりませんので、よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） これ、よっぽど議会、ばかにされてるのかなと思ってんだけど、正直な話で。

だから、これ幾らですか、3,000万円、つくったのね。しかも、だって今年だよ。今年、去年の3月、終わったんだから。それで、例えば具体的に、この例えば建設改良費4億4,000万円、これ何をやる予定だったんですか、本当は去年の3月までに。具体的に言って

くれますか。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） ビジョンのほうで、令和3年度という形でよろしいでしょうか。

（発言する人あり）

○水道課長（宮負 亨） こちら建設改良費ということで、基幹管路、重要給水管路、それと……。

失礼いたしました。令和3年度ビジョンのほうでは、基本設計、それと実施設計、それと基幹管路と重要管路の耐震化事業でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 基本設計、今言った仕事を、令和3年度でやなくていいんですか。

本予算では載ってないですよ、4億4,000万円ね。やなくていいんですか。それだけなんですけど。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 失礼いたしました。

先ほど申しあげましたように、基幹管路の基本設計、それと旭配水場の更新の基本設計につきましては、こちらの3条予算の排水及び給水費の委託料のほうに盛り込んでおります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

木内欽市委員。

○委員（木内欽市） この予算と直接は関係ないんですが、関連ということで、水道管も耐用年数が来てて、これから工事費とか、たくさんかかるんでしょうけども、今現在、旭市にもう給水管、管が容量がいっぱいで、これ以上、一般申込みがあっても、給水ができないというようなどころがあると思うんですよ。そういうところ、今、何か所ぐらいあるのか。

そうして、そういうのを見越して、水道はある程度もう容量がいっぱいになってきたら管を太くするとか、そういった手だてを講じていかないと、これ幾ら住宅対策しても、水道が引けないのでは住宅、建てられませんから、その点をちょっとお聞きしたいんです。そうい

った箇所、何か所ぐらいあります、今。水道がもう、本管がいっぱい、申込者が多くてちよっと対応できないというようなところ。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 正確には把握しておりませんが、何か所かはあるとのこと。

しかしながら、水道の場合はですね、市民の方が一般専用住宅を申し込む場合は、幾ら現時点でその容量がオーバーしてることがあっても、一般専用住宅の場合はお断りすることはできませんので、申込みを受けております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 一般の住宅、例えば分譲をして3区画ぐらいあるとしますね。その場合は、一般住宅、一応、分譲の住宅ということで、そういうところでも引けるんですか。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） はい、お答えいたします。

あくまでも申請者が市民、一般の方に限ります。それで、申込者が業者の方ということになりますと、もしその時点で申込みの件数がオーバーしていた場合は、業者の場合はお断りをさせていただきます。しかしながら、一般の市民の方は断ることができませんので、申込みを受けてるような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 例えば分譲する場合には、開発業者が分譲しますね。それを一般の人が買った場合には、オーケーということですか。

ちょっと聞いたんですが、網戸のあたりでやったら、そこは水道が引けないということで、業者が開発を諦めざるを得ないようですけども、せっかくその業者が分譲してくれて、住宅を買い求める人がいるわけですね。他市から思ったら安いし、旭は環境がいいんで、道の駅とか、いろんな生涯活躍のまちあるんでね、旭へ引っ越したいという要望があって、業者は宅地を分譲しようと思うんですが、そういう場合には駄目ということですか。30区画あって、それを個々が自分で買って、個々で買った人が、個々に申請すれば、それはオーケーということなんですか、どういうことなんですか。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 繰り返しになりますが、あくまでも申込者の方が一般の方の場合です。それが、業者の方は、もし容量をオーバーしてる場合は、お断りをさせていただいております。

それとですね、その造形、その容量が足りない、その地域、区域なんかを、そこら辺の対応なんでございますけども、水道ビジョンを作成しました。今後、要するに更新をしていかなければなりません、耐震化も図って。そのときに併せて、そういった要するに容量不足、水量不足のところにつきましては、今後、更新と併せて造形等も考えていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） くどいようですがね、ですから水道はある程度、容量が不足のところは、もうある程度、管を太くしてやると。そういう整備は、行政でないとできないわけですから。確認します。

30区画の分譲をしたとして、その土地を一般の人が買ったと、30人が買ったと、30世帯が買って、その人が個々に申請すれば、それはいいということなんですか。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 議員、お見込みのとおりでございます。

よろしいでしょうか。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑ありませんか。

遠藤保明委員。

○委員（遠藤保明） この件に関してちょっと、結構、分譲地というのは、水道事業にしても、ガスにしても、ある程度、水道課なら水道課と協議すると思うんですよ。その本管に関して、よく分譲地なんかというのは、ある程度、取水配水管、準備しますよね。そのときの口径で、今、木内さんが言ったように、30件、急にここに並びますよといったときに、75の管と150の管、200の管、対応できるあれがないと思うんですが、そのときは協議しないんですか。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 一般的な流れでございますけども、業者の場合は、水道課のほうにここに引き込めるかどうか事前に相談があります。

それで、うちのほうで一応、県の指針を使ってまして、この口径だと給水申込み、例えば100件までだとか、そういったのが一応、データ的に出るようになってまして、それを超えてる分については、一般の方以外は、ここはこういう状況だから申込みはできないということで、お断りをさせていただいております。しかしながら、給水が可能であれば、それから正式な手続きで事前協議をして、それで工事をするような形になっております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員、よろしいですか。

遠藤委員。

○委員（遠藤保明） では、もう一度、確認ですが、個々に30区画の例えば分譲地、先行投資で5人の方が家を建てると。5人、個別に申請した場合は、それはできますよね。そういう状態になったとすれば個々が申請する。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） その辺は、いろいろケース・バイ・ケースでありますので、水道法では、一般的には正当な理由がなければ拒むことができないという規定がありますので、一般的には、一般市民の方が一般の専用住宅を建てるということで申込みが来た場合は、水道としては受けざるを得ないということになっております。

詳細のこれはどうだ、これはどうだというのは、いろんなケース・バイ・ケースがございますので、その辺はちょっと答弁を差し控えたいと思います。

以上でございます。

個々にご相談をいただければ、こちらも窓口は開いておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員、よろしいですか。

○委員（遠藤保明） もう1件、じゃ最後に。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員。

○委員（遠藤保明） たまたま木内委員が言われたとおり、何かそういう看板が出てますよね。何か分譲するような。どういう作為で、私のところへ、そういう意見が来たのか分からないんですね。

市が、ここに両端やるから、俺のほうのあれは出せないのかなという意見もあったものですから、ちょっと確認したんですよ。それは、いいです。ただ、そういう意見が私のところに入ったものですから、それでたまたまそういう意見を聞いて、ああそんなことはないよというあれを、今度は返答できると思うんですよ、私も。それで、確認をしたんです。

個々に、ただ出した場合ですね、最初、個人の方が申請を出した。あとから続いて10件の方がまた個々に申請をしました。管路、径が違いますもんね。その管の交換のときは業者がやるわけですか、水道課がやるわけですか。

○委員長（向後悦世） 遠藤委員の質疑に対し答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（宮負 亨） 自分の建てる土地に、水道本管が敷設されていない場合につきましては、市のほうで負担要綱という補助金制度を設けておりますので、それを利用していただくような形、あくまでも自分で引込みもしてもらおうという形になります。

以上です。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） じゃ、議案の質疑は途中ですが、11時15分まで休憩いたします。

休憩 午前11時 3分

再開 午前11時15分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、議案の審査を行います。

ほかに質疑ありませんか。

都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） ただいま30区画の分譲地の話が出ておりました。30区画くらいになりますと、宅地開発のほうの県への申請の規模になるかなというふうに考えます。そうなりますと、当然のことながら、宅地開発の事前協議というものがございまして、いろいろそろえていただきたい要件の中に、今お話の出た水道の件とか、道路の件とかございます。

ちょっと規模が大きいので、それに倣って施工業者の方は、事前に水道課等が、建設課とか道路の件がありますので、協議に行ってくれてる中で今の問題が出たと思います。

先ほど5区画くらいのお話もちょっと出ておりましたけれども、最終が30区画とか大きいのがちょっと見えておりました、道路の今の現在、聞いているお話の中では30区画くらい道路の、それに伴って道路の付け替えとかというお話もちょっと出ておりました。中を通る道路が、ちょっと斜めに通ってまして、使いづらいので道路まで付け替えしようかなというところの話のちょっと事前の相談という形でも来ておりました。

その道路の付け替え等々も考えますと、その手前だけ5区画とかというのは、なかなか思ったようにいかないのではないかなというところでごさいます、また最終的に30区画とかというのが見えてますと、最後、市の協議ではなく、県の協議にいったときに、途中でこの開発自体がというところで、県のほうで今度、開発を受け付けてくれなくなるとか、そういうことも考えられます。

ですから、ちょっといろいろご事情はあって、ケース・バイ・ケースであるとは思いますが、そういう事前のその協議というところをしていただいた中で、ちょっと進めていただければというふうに考えてます。水道管だけではなくて、いろんな様々なちょっと問題がございますというところで、それを並行してクリアしていただければと思います。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑ありませんか。

木内欽市委員。

○委員（木内欽市） だいたい分かりました。

だから、何度も確認したのは、そういうことなんですよ。要するにあれでしょう、さっき水道課長の答弁だと、30区画を個々に買って、個々から申請が出れば、それは引くと言ったでしょう。そういうことじゃないでしょう。できないでしょう。だから、今、課長が言ったようにね。

30区画を業者が全部分譲して売っちゃって、買った人が、30人が個々に申請すれば水道を引けるんですかと言ったら、それは引けるって言いましたね、水道課長。そうじゃないでしょう。それは、できないでしょう。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） それはですね、どういう形でやるかも、絵も見せていただかない中で、うちのほうの開発部局としては、できるかできないかは、ちょっと何とも回答がし

難しいです。ぐるっと道路に面してて、その道路から三十四方から取れるとか、そういう条件がもしかしたらあるかもしれませんが、あくまでもその開発行為になった場合の話を、私させていただきましたので。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） そこがね、後々トラブルの原因になってもいけませんので、さっきのだから水道課長の答弁、私が聞いたでしょう。そこも何やるか分かりませんが、業者がやる分にはそれは駄目。それは分かりますよ、開発に引かかるから駄目と分かりますが、それをだから30区画を全部個々に、もう宅地で分譲して買った人が個々やればいいのと言ったら、いいと言いましたよ。だから、それは駄目なんでしょう。そういうことだったら、何にもならないじゃないですか。

仮にそういうことが可能であれば、その地区がもともともう水道の個数が多くて、そうしたら30戸も出ちゃったら、今度、隣の元からいる市民が、水圧が下がったとか、そういうトラブルが出るでしょうから、そういうやつを個々から申請するという、業者が個々によっても、それは個々だから、そういうことは駄目なんでしょう。できないんでしょう。

○委員長（向後悦世） 加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） 仮定の話なので、なかなか答えづらいと思います。ただ、30戸の家が建つところの一角が分譲地になるような、例えば家を建てるということであれば、少なくとも今、50坪であれば、165平米の30戸だから、当然もう面積も権利要件になります。そうしたときには当然事前協議が必要なので、その段階で業者が入らなければ、その宅地分譲自体もできないわけですね、正直、個々の売買でなければ。ですから、それは現実には引けないということであります。

そのように開発行為を経なければ、それこそ違反宅造になってしまいますので、そういうことですね。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） ですから、そういうところは、そもそもじゃ個々に分譲もできないということですね。売ることがもうできないということになるから、そういった問題は出てきませんね。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

加瀬副市長。

○副市長（加瀬正彦） 宅地開発の指導要綱、それから県の開発条例、それらのところの面積

以下でやる分には、例えばそのうちの本当の一区画、面積に引っかからない部分だけ売る、それはできます。ということですね。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） ですから、旭にはそういったところがたくさんあると思うんですよ。今現在も容量がいっぱいで、新たに宅地開発ができないようなところがあると思うんです。ですから、そういうところはあらかじめ管理するとか、そういうのが必要じゃないですかというのが、最終的に私の言いたいところなんです。これだけ人口が増えているのは、海上もそうですけど、昔は銚子市が土地が高かったから、旭に来た、海上に来たってあるんですよ。

ですから、別に誰の肩を持つでもないんですが、ここまで人口が増えたのは、開発業者の力も大きいと思うんですよ。土地を開発する業者ね。そういった方々の、よく不動産屋、不動産屋って悪く言う人もいますけども、そういう人たちの努力なしには、これだけ人口増えてないわけですよ。ですから、そういった方々が、今度またここも開発をしようというときに、今のような規制がかかったんでは、もうこれ以上、増えませんよね、人口ね、住宅地が。

そういうことを言ってるんで、そういう場合には、あらかじめ市が整備するのも、当然管も細くなってるし、古くなってるんだからということで、最終的にはそのお願いです。先ほど水道課長が徐々にやっていくということですのでね、そういう答えをいただきましたかっただですよ。

お答え結構です。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について補足説明がありましたらお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（丸山 浩） それでは、議案第7号、令和3年度旭市公共下水道事業会計予算の議決につきましては、本会議において説明申し上げましたとおりでございます、ほかに補足して説明する内容はございません。

よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） それでは、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

続いて、議案第8号について補足説明がありましたらお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（丸山 浩） それでは、議案第8号、令和3年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決につきましては、本会議において説明を申し上げましたとおりでございまして、ほかに補足して説明する内容はございません。

よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 議案第8号について、質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 簡単に。ポンプ場費というのは、今回ないですよ。これの説明をちょっとお願いしたいんですが。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

下水道課長。

○下水道課長（丸山 浩） お尋ねの件でございます。

ご案内のとおり、令和2年度より、二つの会計が下水道の所管になりました。なおかつ、公営企業ということで移行しましたので、科目の整理をいたしまして、その辺の関係でなくした次第でございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 処理場費に一括されてるといいますかね。

○委員長（向後悦世） 下水道課長。

○下水道課長（丸山 浩） はい、ご案内のとおりでございます。

○委員長（向後悦世） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号中の所管事項について、補足説明ありましたらお願いいたします。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、議案第9号につきましては、本会議での補足説明並びに議案質疑で説明したとおりでございますので、特に補足して説明する内容はございません。

よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） 議案第9号につきまして、農水産課所管事項につきましては、本会議における説明以外にはございませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 第9号につきまして、都市整備課からは本会議で補足説明申し上げた以外ございませんので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について、質疑がありましたらお願ひいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第19号について補足説明ありましたらお願ひいたします。

農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） 議案第19号、旭市農産物処理加工センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、本会議における説明以外にはございませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） 議案第19号について、質疑がありましたらお願ひいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第19号の質疑を終わります。

続いて、議案第20号について補足説明がありましたらお願ひいたします。

都市整備課長。

○都市整備課長（栗田 茂） 議案第20号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてにつきましては、本会議で補足説明申し上げた以外ございませんので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第20号について質疑がありましたらお願ひいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第20号の質疑を終わります。

続いて、議案第25号について補足説明ありましたらお願ひいたします。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、議案第25号、和解及び損害賠償の額を定めることについて、建設課から補足説明を申し上げます。

本会議での補足説明と重複する点があるかと存じますが、ご了解をお願いいたします。
まず、当該案件の経過からご説明申し上げます。

平成30年10月3日から平成31年3月25日の間、旭市三川地先におきまして、旭市発注の蛇園南地区流末排水整備事業におきまして、排水路整備工事が起因しまして、市内在住の方が農業経営で使用している農業用ビニールハウスにおいて、地下水が低下したことにより、作付するキュウリの収穫量が減少しまして、減収となる損害が生じたため、その損害に対し賠償を行うものであります。こちらビニールハウスの規模としましては、約3,200平米ございます。

次に、当該工事内容の原因についてですが、排水路整備工事におきまして、道路内にボックスカルバートという四角い排水施設を埋設するため、地表面から3メートルほどの掘削作業が必要でございます。

工事に支障となる地下水の湧き水対策として、ウエルポイント工法により地下水位を下げ、ボックスカルバート、こちらの構造物を埋設する工事を施工いたしました。

このため、当該ビニールハウス付近で、工事施工に伴い、ウエルポイント工法により周辺の地下水位が低下したことから、栽培しておりましたキュウリへの水分吸収量が不足したことによって、当該作物の生育不良が生じ、減収となったことによるものでございます。

次に、損害賠償額229万3,997円の算定内容についてご説明を申し上げます。

当該工事の期間中、このウエルポイント工法による実施期間である平成30年11月から、平成31年3月までの5か月間を算定期間として、過去の出荷量を基に算定しまして、減収となった損害金額を算出してございます。

なお、ご本人は野菜価格安定対策事業に加入されており、一部、減収分に対し、交付金が支払われておりますので、この分は減額しております。

この損害額の算出に当たりましては、関係機関、こちら県の農業事務所への損害に係る算定方法等の助言をいただくとともに、市の顧問弁護士へ、賠償についての算定方法や、算定額が妥当であるかを意見を徴しまして、損害賠償額について妥当であるとの回答をいただいております。

最後に、相手方の交渉において、令和2年12月に示談することに至ったことから、本議会で議決をお願いするものでございます。

以上、議案第25号の補足説明を終わります。

よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第25号について質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） ご苦労さまです。

ちょっと興味があると言うとおかしいんですが、地元、蛇園の流末排水ですよ。多分これ作物だけじゃなくて、家屋も何件かあったと思うんだけど、地下水位が低下したって言いますが、今も地下水位の低下は観測していますか。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、この路線の工事に関しましては、全て完了しておりますので、その後、地下水の低下は計測はしてございません。

以上です。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 3メートル掘って、ボックスの基礎に採石が入ってると思うんだけど、それがあるかどうかね。

それから、ボックスにウィープホールってつけてあるかどうか分かりますか。

まず、採石は。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） ボックスの基礎に関しましては、採石と、あとその上に生コンを引きまして、ボックスを上に乗せております。

そのような回答で。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 水位は多分、深くても2メートルくらい、自然地下水はね。もともと2メートルくらいだと思うんですが、1.5か2メートルくらいあると思う。3メートル掘って、3メートル50ぐらいのところに採石を置くと暗渠になるんですよ。普通は、ウィープホールって、そこから入ってくる地下水も入れるものをつけるんだけど、それはつけてないでしょうけど、少なくともそれ採石を取ってね、下流側に暗渠になっちゃうんですよ。そうすると、完成した後もかなり水位、下がると思うんだよね。だから、その辺の観測をできればして。

設計した米本さんが建設課長のときに、俺、大変な仕事だからちょっとほかのこと考えてくれと言っただけで、結局やって、そばにある家、何件かやっぱり被害が出て弁償したと思うんだけど、その後の地下水位を、できれば後で分かったら、ちょっと確認してもらえればありがたいなと思うんですけど。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） ちょっと難しいお話かもしれませんが、何かいい手だてというか、そのような計測方法があれば試したいと思いますので、よろしくお願ひします。

すみません。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

木内欽市委員。

○委員（木内欽市） ただいまの件ですが、こういうのの賠償額、保険のようなのは入っていませんか。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） こちら保険は入っておりません。このような保険はないということで、通常の道路陥没による事故等であればあるんですが、この工事に関しましてはないという、うちのほうでも保険会社等、お聞きしまして、このような保険はないということでお聞きしておりますので、すみません、よろしくお願ひします。

○委員長（向後悦世） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第25号の質疑を終わります。

続いて、議案第27号について補足説明ありましたらお願ひいたします。

建設課長。

○建設課長（加瀬博久） では、議案第27号につきましては、本会議で補足説明したとおりでございますので、特に補足して説明する内容はございません。

よろしくお願ひします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第27号について質疑がありましたらお願ひいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第27号の質疑を終わります。

続いて、議案第30号について補足説明ありましたらお願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長(多田一徳) 議案第30号、専決処分の農水産課所管事項につきましては、本会議における説明以外はございませんので、審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長(向後悦世) 商工観光課長。

○商工観光課長(小林敦巳) 同じく、議案第30号につきましては、本会議で説明以降、以後、補足説明はございません。

商工観光課所管分でございます。説明はございません。

以上です。

○委員長(向後悦世) 担当課の説明は終わりました。

議案第30号について質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第30号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長(向後悦世) これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第1号、令和3年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 賛成多数。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第6号、令和3年度旭水道事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

議案第7号、令和3年度旭市公共下水道事業会計予算の議件について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議案第8号、令和3年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

議案第19号、旭市農産物処理加工センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

議案第20号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

議案第25号、和解及び損害賠償の額を定めることについて、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

議案第27号、市道路線の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

議案第30号、専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(向後悦世) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告のある所管課は随時報告してください。

農水産課長。

○農水産課長(多田一徳) 農水産課から、3点、報告をさせていただきます。

まず、高病原性鳥インフルエンザの状況と、家畜環境フレッシュ事業実証実験状況報告につきましては、資料のほうをご用意させていただいております。

農用地区域からの除外申請の受付開始につきましては資料がございません。

それでは、まず初めに高病原性鳥インフルエンザの状況につきまして、2月28日現在でのご報告をさせていただきます。

資料のほう高病原性鳥インフルエンザの状況報告というものになってございます。

それでは、資料に沿いまして、まず1の発生の概要になります。

本年2月6日、市内、見広地先の養鶏場で発生が確認され、採卵鶏42万4,140羽の殺処分

をしております。

また、②の岩井地先の匝瑳市の関連農場は、2月4日に匝瑳市で発生が確認された農場と、従業員の車の往来があり、黄砂汚染の可能性があるととして殺処分などの防疫措置が行われております。

2の防疫措置の状況になります。

①の発生農場では、2月6日から殺処分が進められ、2月20日に農場の消毒が終了し、防疫措置が完了しました。

②の匝瑳市関連農場は、2月23日に防疫措置が完了しております。

次に、3のサブステーションの設置になります。

サブステーションは、発生農場などで作業する人や物の集合拠点となる施設で、県の現地対策本部も置かれておりました。今回の発生では、海上公民館をサブステーションとし、発生から2月3日から農場での作業が終了した2月20日まで、24時間体制で開設をしておりました。

4の市内消毒ポイントですが、消毒ポイントにつきましては海上支所とひかた市民センターの2か所にて設置をしております。利用につきましては、合わせて4,351台の車両の利用がありました。

5の道路の消毒になります。

今回発生した農場の周辺には、多数の養鶏場があるため、県では道路の消毒を緊急的に2月12日から実施しております。実施範囲としましては、発生農場周辺の主要な県道、市道、およそ30キロの区間となっております。

続きまして、2ページをご覧ください。

6の移動制限区域及び搬出制限区域の状況になります。

移動制限区域は、発生農場から半径3キロメートル圏内、搬出制限区域は、発生農場から3キロメートルから10キロメートル圏内が指定され、この区域内にある農場は、鶏や卵の移動が制限されますが、国との協議により移動できる場合もございます。

下の表は、卵を移動する場合の例ですが、右側の状況にある検査の協議が必要となります。県では、生産者の出荷が止まらないように、発生直後から国との協議に向けて、各農家への聞き取りを進めております。

続きまして、7の今後の予定ですが、収束に向けての基本的な流れとなっております。

(1)の清浄性確認検査ですが、県が3月3日に実施し、その結果、移動制限区域内の全

ての農場で陰性が確認をされましたので、3月8日に(2)の範囲制限区域が解除されました。

(3)の移動制限区域の解除につきましては、今後、新たな発生が確認されなければ、3月14日に解除される予定となっております。

続きまして、8の主な経営支援の内容でございます。

まず(1)の発生農家に対する支援としましては、殺処分した家畜の評価額の全額が国から手当されます。また、殺処分した家畜や汚染物品の焼埋却は、基本的には県が実施しますので、発生農家の負担はありません。これは家畜伝染病予防法に定められている支援となります。そのほか各種融資制度や、家畜防疫補助事業などによる支援がございます。

次に、(2)の移動制限、範囲制限区域内の農家に対する支援になります。

移動が制限されたため、出荷できなかったなどの売上減少額、または飼料費や保管費、輸送費などの増加した額が全額助成されます。

生産者の皆様には、受けられる支援は全て受けられるよう、県と協議して情報提供等を徹底していきたいと考えております。

以上で、高病原性鳥インフルエンザの状況報告は終わります。

続きまして、資産環境フレッシュ事業実証実験の状況報告をさせていただきます。

資料のほうは、畜産環境フレッシュ事業実証実験状況の報告と書かれたものになります。

まず実証実験になりますが、この事業は令和元年度から開始した事業で、市街地周辺の4戸の養豚農家で、飼料添加剤を導入し、家畜に与え、臭気の状況を確認するもので、今年度は肥料添加剤に加え、臭気を密閉化する資材の導入も併せて行っております。

市内の臭気の状況につきましては、市内50地点で臭いを感じたときに記録する固定モニタリングのほか、週1回、取組農場を巡回して臭いを記録する巡回モニタリングを実施しております。

下の図は、黒丸が固定モニタリングの地点で、資格のAからDが取組農家を表示したのものになります。

資料の2ページをお願いいたします。

1の現状分析になります。

(1)は固定モニタリング調査で、左側の表は昨年度、右側の表は今年度の状況になります。

臭気の記録は、モニタリング地点、50地点のうち、昨年度が25地点で562回、今年度が23

地点で555回の記録がありました。特に市の北部、東部、中央部で多く記録が見られました。

また、臭いの畜種別で見ますと、最も多かったのが豚由来の臭いで全体の46%。

次に、記録が多かった不明は41%でございました。この不明は、臭いが混在し、特定できなかったことや、竹などでの対比などが考えられます。

次に、(2)の巡回モニタリング調査になります。

取組農家の四方、東西南北で臭気を確認した結果、臭いを感じたのは990回のうち234回で、およそ4回に1回は臭いを感じたことになります。臭いの地点で見ますと、農場の西側と南側で特に多く記録がありました。この地点では、風下に当たる地点であり、臭気は風向きと大きく関与しているものと推測されます。

モニタリングの結果及び考察としまして、市のほぼ全域で畜産の臭気を感じており、その多くが豚に起因する臭いであることが分かりましたので、養豚農場での対策が効果的である可能性が高いと考えられます。

また、隣り合っている地点でも、記録のありなしがあるため、空気でも薄まらずに固まりのまま移動している可能性がありますので、臭気を分散させて、空気でも薄める対策が有効であると推測されます。

続きまして、資料3ページをお願いいたします。

2の効果検証になります。

(1)は飼料添加剤の導入前と導入後の状況を比較したもので、左の表が対策前、右の表が対策後になります。

全体で見ると、臭いを記録した地点が6地点、記録数が55回減少しておりますが、取組農場周辺の地点では記録数が減っておらず、また②の巡回モニタリングでも、臭いを感じた割合が多少減ったものの、大きな変化は見られませんでした。

ただ、取組農家から、導入後は苦情が減った、臭いの質が変わったと言われ、そのような意見も聞いております。

効果を実感している生産者もおりますので、添加剤の変更など、いろいろ試しながら、実証実験を実施してまいりたいと思います。

次に、(2)の臭気分散資材等の導入になります。

こちら先ほどと同様に、対策前と対策後の臭気指数を比較したのになります。

取組の概要としましては、まず農場内の臭気指数を特定し、最も高い数値を観測した原尿槽の対策を実施しております。具体的には、発生源を覆い、臭気の拡散を抑制する対策にな

ります。

写真の部分になりますが、左側が開口部にステンレス製の板を設置、右側がベニア板を設置した取組になります。それぞれ臭気指数が減少しております。

今回の実施により、対策の効果を知ることができましたので、このような取組を行う農場を少しでも増やしていくことが、臭気の軽減につながる可能性が高いと考えております。

なお、今回、取組農場、4農場全てで同様の対策を実施しておりますが、県畜産総合研究センターと合同で実施する臭気測定が、鳥インフルエンザの対応で実施できていないため、2農場のみの記載となっております。

以上で、畜産環境フレッシュ事業実証実験状況の報告を終わります。

それでは、3点目に移らせていただきます。

こちらのほう、資料ございません。

農用地区域からの除外申請の受付の再開についてでございます。

農業振興地域整備計画の見直しに当たり、農用地区域からの除外などの受け付けを停止しておりましたが、見直しが終了し、受け付けを再開しましたのでご報告いたします。

受付締め切りは、3月末と9月末の年2回を予定しております。

周知につきましては、広報あさひ、市ホームページで案内をしております。

報告につきましては以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

それでは、ただいまの報告について、何かお聞きしたいことがありましたら、お願いいたします。

高木寛委員。

○委員（高木 寛） ちょっとだけ質問します。

畜産環境フレッシュ事業実証実験状況報告書の中で、固定モニタリング、巡回モニタリングとありますが、それぞれ固定モニタリングは機械だけで、巡回モニタリングは農水産課の職員の皆さんが巡回して測定したということよろしいでしょうか。

○委員長（向後悦世） 高木寛委員の質問に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（多田一徳） 固定モニタリングにつきましては50点地点、職員にそれぞれお願いしまして毎月報告を受けております。

巡回モニタリングにつきましては、職員と、あと県の畜産総合研究センターの方も一緒に

巡回して、測定のほうをしていただいております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

ほかに質問はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（向後悦世） 以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午前11時58分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 向 後 悦 世